

「Dogs 7 days」

ジヨン♂(8) ミニチュアピンシャー

マックス♂(4) ビーグル

リリイ♀(4) ウェルシュコーギー

チャコ♀(12) トイプードル

ビート♂(7) ボーダーコリー

レオ♂(15) ミニチュアシュナウザー

シヨコラ♀(6) マルチーズ

ナナ♀(3) チワワ

エルビス♂(6) ダルメシアン

舞台は、郊外にある動物愛護センターの檻の中。

舞台上手奥に鉄柵の扉があるという設定。

ゴウン、ゴウンという機械音。

明りがつくくと、ジョンと、マックスが胸倉をつかみ合っている。上手奥にあらぬほうを向いて、澄ました顔のチャコ。

ジョン
なんだ、君は。いきなりつかみかかってくるなんて失礼じゃないか。

マックス
ここはどこだって聞いてんだよ。何も答えねえから、つかみかかっているんじゃないか。

ジョン
私だって、ここがどこだか知りたいよ。何なんだ、いったい。私を急にこんな狭苦しいところに放り込んだりして。

マックス
まったくだ。いきなり車に乗せられたと思ったら、次はこの檻の中だ。俺がいったい何をしたいというんだ！

ジョン
まあ、少し冷静になろうじゃないか。どうして、

こんな息苦しいところに閉じ込められているのか、冷静に考えようじゃないか。

マックス

おっさん、冷静になんて考えてる場合じゃねえ。

ここはおかしい。普通の場所じゃない。何か聞こえるだろ。大きな機械がゴウン、ゴウンと動く不気味な音が。

ジョン

確かに。

マックス

何か恐ろしいものが迫ってきてそうな嫌な音だ。

ジョン

こんなところからは早く脱出したほうがいい。

マックス

そうだよ、やっと気付いたか、おっさん。

ジョン

おっさんはやめなさい。私だってねえ、ちゃんと名前があるんだから。

マックス

わかったよ、おっさんじゃかわいいそうだから、聞いてやるよ。

ジョン

ジョン。俺はジョンだ。

マックス

俺はマックス。よろしく。

ジョンとマックス、お尻の匂いを嗅ぎ合う。

チャコが、近くにやってくる。

チャコ　私は、チャコ。よろしく。

ジョンと、マックス、チャコのお尻の匂いを嗅ごうとする。舞台を駆け回る三匹。

チャコ　やめて！ 私、お尻の匂いを嗅がれるのは嫌いな
の！

ジョン　（マックスに）挨拶の基本じゃないか、なあ！
マックス　そうだ、挨拶だ。

チャコ　だから、その挨拶がいらないうって言うてんのよ。
発情してんじゃないわよ。このオスどもが。

マックス　ふざけんな、ばばあ。お前に発情なんてするわけ
ねえだろ！

チャコ　ばばあ！？ このビューティフルなあたしに向か
って、公然とばばあ！ 訴えるわよ！

ジョン　マックス言い過ぎだろう。いくらそうだと
して
も。

チャコ ジョン、あなた、ジョンって言ったわよね。あん
たも訴えるわ。

ジョン (チャコに) 私はこれでも、いま、あんたをフォ
ローしたつもりなんだけどね。

チャコ フォローになってないわよ、全然！

ジョン 好きにしろ、挨拶はいい。

ジョン、マックス、チャコから離れる。

チャコ、二匹に触られたところを手で払っ
ている。

チャコ、潔癖に近い綺麗好き。

ジョン しかし、参ったな。柵と壁に囲まれている。しか
も出口は奥に一つだ。逃げられそうにないな。

マックス これじゃあ、罪人みたいじゃないか。

チャコ 私たちは何も悪いことなんてしてないでしょ。

マックス じゃあ、どうしてこんなところに入れられなきや
いけないんだよ。主人がちゃんと俺をつないでお
かないから、こんなことになってるんだ。

ジョン　　なんだ、君は主人の家から抜け出してきたのか。

マックス　新聞配達の子ちゃんが来て、必死に吠えてたんだ。そしたら、首輪が抜けてさ、そのまま出てきちゃったんだ。

ジョン　　そりゃあ、自業自得ってやつじゃないか。抜け出して来た君が悪い。

マックス　首輪が外れたんだよ。主人がすっかりつないでおかないからいけないんだ。

チャコ　　それで、外をほっつき歩いているところを捕獲されて、ここに連れられてきた、と。そういうわけ？

マックス　まあ、そんなところ。っていうか、そのまんま。

チャコ　　そりゃ、自己責任だわ。でも、いいじゃない。それだったら、飼い主が迎えに来てくれるでしょ。

私の大事なワンちゃんはどこに行ったのかって必死に探してるわよ、きつと。

マックス　　どうか。俺は噛み癖があつて、ずいぶん主人を悩まして来たから。

ジョン (マックスに) 初対面の僕にいきなりつかかっ
てくるんだ。ずいぶん威勢がいいと思ったよ。

チャコ (マックスに) レディーの気持ちも考えないで、
お尻の穴、嗅ごうとするのはやめてほしいわね。
マックス じゃあさ、あんたらはどうしてここに運び込まれ
たわけ？

ジョン それは、あれだよ。やむにやまれぬ事情があつて
というやつで……。

チャコ そう、どうにもならないことつてあるもんよね
え。

マックス もしかして、捨てられてきたとか？

ジョン ……。

チャコ ……。

マックス 凶星だ。なんだ、あんたら脱走したんじゃないか
て、捨てられたんだ。捨て犬つてやつだ、要する
に。

ジョン 捨て犬だろうが、なんだろうが、ここに連れて来
られたことに違いはないじゃないか。

マックス そうか、捨てられたんだ。こりゃ、笑えるわ。

チャコ マックス、あんたねえ、出会って間もない相手に
対して、それは失礼なんじゃないの。笑えないわ
よ、全然。

マックス 忠実にご主人さまに仕えてきたのに、捨てられた
んだ。これが笑わずにいられるかよ。

マックス、意地悪く笑う。

ジョン 君は礼儀というものを知らないみたいだね。

チャコ 同感。

ジョン 最近の若者は、やたらにキャンキャン吠えて、あ
ま噛みしてくるが、あま噛みになってないときが
ある。血が出るほど噛まれたらそれは遊びじゃな
いだろう。

チャコ ああ、思い出したわ。あのセントバーナード。こ
っちは、上品に通りすがっただけなのに、いきな
り噛みついてきて。あれもあま噛みじゃなかった
わ。一瞬、噛み殺されるかと思ったわよ。

ジョン どれくらい噛んだら、血が出るかってことがわか

ってないんだ。飼い主のしつけが悪いんじゃないのかな。

マックス 俺の主人が悪いっていうのか。

ジョン 少なくとも、優秀じゃないね。君の噛み癖を直してないわけだから。しつけを怠っているというわけだ。

マックス 俺の主人を悪く言うな。

ジョン おっ、忠犬ハチ公じゃないか。あれは秋田犬だがね、君は見たところ、ビーグルだ。

マックス そういうあんたはミニチュアピンシャーか。ドーベルマンに似てるからって偉そうにすんなよ。あんたはミニピンだ。

ジョン ミニピンって言うな。これでも運動能力は極めて高いんだ、私は。

ジョン、舞台を駆け回り、飛び上がったたりするが、すぐに息が切れてせき込む。

マックス 大したことないじゃないか。

ジヨン 若い頃はもっと走れたんだ。シャシャーっとフリスビーを追いかけてスチャットくわえたもんさ。

マックス 老犬か。

ジヨン まだ、そこまで言っていない。中年だよ、中年。これだけ走ればいいほうだろう。

チャコ ミニピンにビーグル。血統では私のほうが断然、上ね。

マックス トイプードルだからって、偉そうにすんなよ。

チャコ あたしの祖先はねえ、かの有名なフランス王、ルイ16世に王宮で飼われていたのよ。あんたたちとは品と格が違うのよ。そこんところ、しっかり頭に叩き込んでおいてよね。

マックス トイプードルと言っても、しっかり老犬じゃないか。

チャコ まだそこまでいってないわよ。もう少し若さで踏ん張れるわ。

マックス あきらめろ。おばはんが無理に、若くあろうとすると、逆に醜く見えるんだ。私、あきらめてるんです、でも女です、ぐらいがちようどいい。

チャコ 偉そうなこと言うんじゃないわよ。この若造が！！

チャコ、マックスを叩き始める。

マックス 何すんだ、ばばあ！

チャコ ばばあ、ばばあってうるさいわね、この若輩者が！！

マックス その言葉が古いつていうの！

チャコ (ジョンに) ちよつと、あんた、この子、どうにかして！

ジョン どうにかして、と言われても……。

マックス この檻の中じゃどうにもならねえってか。

ゴウン、ゴウン、ゴウンと響く音。

マックス まただ、またあの音だ。

ジョン 不快な音だな。

チャコ もしかして、あたしたち死ぬんじゃないかしら。

マックス えっ？

チャコ だって、そうでしょう。私たちを捕まえて、この檻に入れて、いつまで私たちをこのままにしておくかしら。

マックス ……。

ジョン 悲観的に考えるのはよしましょう。まだ、ここに連れて来られたばかりだ。すぐに何がどうこうなるってこともないでしょう。

チャコ (冷めた口調で) そうだといいけど。

マックス 死ぬのは嫌だ。

ジョン 考えすぎだって。大丈夫だ。

上手から、リリイ、ビート、ナナが現れる。

リリイ 何、ここ？

ビート ずいぶん辛気臭いところだなあ。

ナナ いっぱいいる、犬が。

マックス 新入りか。

ジョン ようこそ、犬の楽園、パラダイスランドへ。

チャコ ちよつと、ちやかすのはやめなさいよ。

ジョン ちよつとでも重い雰囲気振り払おうとしてるんだ。

リリイ あの、いったい、ここは？

マックス、リリイに近寄って、

マックス 面白いだろ。柵と壁に囲まれてる。扉は奥につつ。刑務所みたいだが俺たちは人間じゃない。何の罪もおかしてない。なのに、こんな狭い場所に閉じ込められてる。

リリイ あの、あなたは？

マックス 俺は、マックス。そこそこにいるのが、俺と同じ先住民のジョンとチャコだ。犬種の説明は省く。そこいらの雑種だ。

ジョンとチャコ、あきれた表情。

マックス 君の名前は？

リリイ 名前？

マックス そう、君にもご主人様がいるだろう。

リリイ リリイ。

マックス リリイか。

ビート (手を挙げて) 俺はビート。

マックス あんたの名前は聞いてない。

ナナ 私はナナ。チワワのナナです。

マックス ナナちゃんか。俺はビーグルのマックス、よろしく。
く。

マックス、リリイとナナのお尻の匂いをさ
つと嗅ぐしぐさ。

マックス 大歓迎。若い女の子は、俺の好みだ。

チャコ チッ！

ビート あのー、僕はビートです。あちらの方たちにもご挨拶を。

ビート、ジョンとチャコの近くに寄ってきて、

ビート どうもビートです。

チャコ お尻の匂いを嗅がれるのは嫌いなもの。

ビート わかりました。誰でも苦手なことってというのはありますからね。

ジョン ちなみに私は雑種じゃない。

チャコ 右に同じく。

ビート そうだと思いましたよ。お二人とも気品がおありになる。かくいう自分も純血種と言いたいところなんです、雑種です。

ジョン まあ、純血種でも雑種でも、そんなことはどうでもいいことじゃないですか。

チャコ そうよ、雑種のほうが体が丈夫だっていうしね。

ビート お気づかいありがとうございます。でも、その氣遣いがときどき胸に突き刺さります。いろいろな意味で。

ジョン 血統の話はやめましょう。そんなこと気にしてた

らキリがない。

チャコ　　そうよ、気にすることなんてないわ。ただし私は純血種だけど。

ジョン　　いま、その話はやめようって言ったばかりじゃないか。

チャコ　　ごめんなさい。でも私はフランス王ルイ16世に……。

ビート　　（突然泣き出して）やっぱりいいなあ、純血種は。でもね、雑種だって犬なんですよ。同じように飼い主がいて、ドライフード食べて、しつけもされてるんですよ。チンチンだってやれと言われればするんですよ。

マックス　　チンチン。気に食わねえなあ。俺はお手が精いっぱいだ。あとはやる気がしない。

ジョン　　ゴローンは？

マックス　　ゴローン？

ジョン　　こう這いつくばって、そのあとゴロつと転んでこんなふうにお腹見せてやるんだ。それでお腹をさすられるのが大好きでね、私は。

ナナ はい、私、おすわりは得意です。

チャコ 私だって、おすわりくらいはできるわよ。

ビート おすわりができないなんて方、いるんですか？

マックス、気まずそうに、ゆっくり手を挙げる。

リリィ まあ、しつ前は飼い主の責任だしねえ。

ナナ そうですよ、おすわりなんて教えてもらえれば簡単にできますから。

マックス 主人はおすわりを教えようとしてた。でも俺は気が恥ずかしくってできなかった。飼い主は大事だが、奴隷になるつもりはねえ。

ジョン おすわり！

マックス以外、全員、おすわりする。

ジョン ゴローン！

マックス以外、全員ごろんと転がる。

ジョン チンチン！

ビートのみ、チンチンのポーズ。

ジョン 従順だね。

ビート ずるいじゃないですか、僕だけ恥ずかしいポーズをさせるなんて。

チャコ ご主人さまに言われてる訳じゃないからね。

ナナ でもいいチンチンでしたよ。

リリィ うん、とっってもいいチンチンだった。

ジョン 若い女の子が、そんなこと言っちゃだめだ！

マックス 何、怒ってんだよ、おっさん。

チャコ どうしたのよ、チンチンぐらいで怒っちゃってねえ。

ジョン だから、だめだって、言ってるだろう！

マックス さては、こんなところに閉じ込められて、気でもおかしくなってきたか。

ジョン ああ、おかしくなりそうだよ、本当に。

ビート でも、これだけ仲間がいると何だかうれしくなりますよ。

チャコ それ、本心で言ってる？

ビート もっと広い場所では会えたら、最高だったんだけど……。

ナナ これから、どうなるんですか、私たち。

リリイ なんだか、薄暗くて、気味の悪い場所よね。

ジョン ご主人が来てくれるのを待つしかないだろう、とりあえず。

キーンコーンカーンコーン、とチャイムの音が聞こえる。

ビート 何の音だろう？

リリイ 学校のチャイムと同じ。この音が聞こえて、しばらくすると、ご主人さまの子供たちが帰って来るの。

ジョン 時間の合図か。

チャコ 柵の向こうの窓からかすかに陽の光。まだ夜まで

あるわ。

ジョン 私は少し昼寝でもしようかな。

マックス 俺もちよつと疲れたな。

ジョンとマックス、横に寝そべって眠る。

チャコ 気楽なもんよね、死ぬかもしれないっていうの
に。

ビート 死ぬ!?

チャコ 何でもないわ。なんとなくそんな予感がしただ
け。あたしもちよつと横になるわ。

チャコも横になって寝る。

ビート 死ぬってどういうことなんだ?

リリィ 深い意味はないでしょ。あたしたち、何も悪いこ
となんてしてないわけだし。

ナナ あの、どうして捕まったんですか?

ビート　まあ、いろいろ事情があつて……。

リリィ　あたしは、公園の木の幹にリードをつけられて、そのまま置いていかれちゃつたの。(ナナに) そういうあなたは？

ナナ　私を飼つてたおばあちゃんが病気になつちやつて……しばらく親戚に飼われてたんだけど、散歩の途中で首輪外されちゃつて。

ビート　ねえ、それつて……。

リリィ　おばあちゃんに早く会つたほうがいいよ。

ナナ　でも、おばあちゃん病気だし……。

リリィ　きつと迎えに来るよ。

ナナ　うん……。

ビート　なんか暇だね、おもちゃの一つぐらい置いてくれればいいのに。

リリィ　あたし、テニスボールが大好きなのよ。あれつて、ポンポンはねて当たつても痛くないし、噛みやすいから最高でしょ。

ナナ　わたしはハンカチが好き。ヒラヒラされると思わず噛みたくなつちゃうのよね。

ビート 僕は穴掘りが好きなんだ。とにかく掘る、掘る、掘る。それで、ご主人様のサンダルを入れて埋めるんだ。

リリイ・ナナ それっていたらずらじゃん。

ビート でもさ、ご主人様がサンダルをあちこち、探し回ってる姿が楽しいんだ。

リリイ 迎えに来ないんじゃないの、ご主人様。

ビート ……。

ナナ 本当に、ここ大丈夫なのかな？

ビート なるようにしかならない、としか言えないね。

リリイ・ナナ ……。

ビート まあ、悲観的になっても仕方がないわけだし、仲間も多いわけだし、楽しくやりましょう。楽しく。

リリイ・ナナ ……。

ビート そういう心境になれない状況は察するけどね、僕だってこれでも無理して笑ってるわけだから、ほらっ、君たちも笑って。

リリイ、ナナ、無理やり笑顔を作る。

ビート いざとなったときは僕がどうにかする。ここから

出ればいいわけだ。それですべて解決だよ。

リリイ どこに帰るの？

ビート ご主人様の家に決まってるじゃないか。

リリイ 捨てられたのよ、私。

ビート ……。

ナナ (つぶやくように) 果報は寝て待て。

ビート 若いのに、ことわざなんて。

ナナ 使っちゃだめですか？

ナナ ……石の上にも三年。

ビート 三年もこんなところで飼い主を待つのかい？

マックス こんなところに三年もいるのは無理だ。第一、散

歩に連れて行ってくれる気配もないじゃないか。

ビート そうだよな、これじゃあ、マーキングもできやしない。

ジョン 小便是我慢してくれよ。ここでみんなやり始めた

ら、汚くなってしまうから。

ビート 生理現象をやめろと言われても困るなあ。

ジョン 原則、禁止だ。大便も小便も、暗転中に頼む。

一同 え〜！

ジョン 明りがつくまでに、係員が片付けてくれるはずだ。

マックス 我慢するなんて無理だ。

ジョン 無理でも頑張れ。うんことしょんべんに囲まれたくはない。

チャコ どうやら、このボスは、

マックス ジョンになりそうだな。

ジョン (微笑しながら) いや、ボスだなんてちよつと待ってくれよ。

チャコ とか、なんとか言いながら嬉しそうだけど。

ジョン そりゃあ、私たちの世界は縦社会だからね、ボスと言われて嬉しくなくもないんだけど、なんだか恥ずかしいっていうか、そういうタイプじゃないだよなあ、僕は。

リリイ ボス！

ジョン いや、なんだか照れるなあ。

マックス

そんなに嫌なら、俺がなってもいいんだぜ。

ジョン

(真顔で)それは嫌だ。君から上から目線で見られたくない。第一、若すぎるってもんだ。

ビート

よっ、チームリーダー！

ナナ

キャプテン！

リリイ

大統領！

ジョン

いやあ、照れるなあ……。。

チャコ

暫定トップよ。あくまでも暫定。

ジョン

まあ、ここにいつまでもいるわけにもいかないから暫定のほうがいいでしょう。それでは代表就任挨拶を。

マックス

ノリノリじゃねえか。

ジョン、喉の調子を整えて、

ジョン

えー、それでは僭越ではございますが、代表として、私たちのこれからの行く末と方針について…

…。

マックス

早くしろ！

ジョン　　まず、私たちの目標は、この柵と壁に囲まれた檻から出ること。

一同　　うん！

ジョン　　でも、無理そうだから、あきらめること！

一同　　えー！

ジョン　　大事なのは、これが現実なんだ、とあきらめることだ。これは夢じゃない。僕たちはいまは囚われの身だ。自由に外に出ることもできない。この先、何が起こるかもわからない。ただ、待つしかない、以上。

ビート　　合ってるけど、それだけじゃあ、夢も希望もないなあ。

ジョン　　夢や希望なんて持てる場所じゃないんだ、ここは。でも唯一、救いがあるとすれば飼い主がやってくる、ここから出してくれると祈り、願うことだけだ。

チャコ　　捨てられたかもしれないよ。

ジョン　　僕たちの気持ちがコロコロと変わるように人間の心も変わる。捨てても迎えに来てくれると信じよ

う。

チャコ 迎えに来なかったら……。

ジョン そのときは、ここから出してくれるでしょ。

チャコ そんな保障どこにあるの？

ジョン チャコ、心配したってキリがないよ。考えない、それが一番だ。なぜなら考えてもどうにもならないからだ。

ナナ あきらめも肝心……。

ジョン そう、若いのに、悟るのが早いなあ。あきらめよう、そして楽しく生きて行こう。

リリィ なんだか不安。みんなそんな簡単にあきらめられるの？

ジョン ……僕たちは所詮、犬だ。飼い主がいなければ、こうして知らない場所に閉じ込められる。何とも無力だ。

チャコ 次に生まれ変わるときは、人間がいい。ねえ、そう思わない？

ビート 僕は犬のままがいいなあ。

ナナ 私も犬かな……。

マックス 俺は人間がいい。いつ外に出かけようが、自由だ。

ジョン 人間はうらやましいなあ、自由で。

リリィ なんで私たちは自由になれないんだろう？

ビート そういう運命なのさ、きつと。

チャコ 運命って一言で片づけられても納得いかないわよねえ。

扉が開く。

上手から、レオが現れる。

レオ、ジョンたちに一礼したあと、檻を見回す。

ジョン あれっ？

レオ まさか、こんなところで君に会うとは思わなかったな。

ジョン レオじゃないか。こんなところで何やってるんだ？

レオ そういふ君こそ何やってるんだ？

レオ、周囲にいる犬たちを見る。

チャコ、レオの視線を感じて、

チャコ お尻の匂いを嗅がれるのは嫌なの。

レオ 私もあんまり好きじゃないんだ、あの挨拶は。

チャコ あら、それなら、きっと気が合うわ。

レオ わたしはね、過去にここに来たことがあるんだ。

リリィ ねえ、ここはどこ？ あたしたちはどうなるの？

何か知ってたら教えてください。

レオ ……。

ジョン レオ、あんたと私の仲じゃないか。平和塔公園

で、あんたはよく私の遊び相手をしてくれた。

レオ ジョン、君はどうして、ここへ運ばれたんだ？

ジョン ……。

レオ なぜ、黙る？

ジョン 捨てられた……。

レオ 私は君の主人を知っている。ずいぶん、君のことを可愛がっていたじゃないか。

ジョン 仕事が出来なくなったらしい。うちの主人は会社

の倒産という災難に遭遇した。

レオ　それで捨てられたのか？

ジョン　理由はわからないが、山の中でキャリーから出された。こんなことは一度もなかった。

レオ　私の主人は大病を患っていてね、前にも一度、私を捨てたことがあった。今度は二度目だ。

ジョン　それは初耳だよ。

レオ　主人に捨てられたことがある、なんて言いたくないもんだ。

ビート　（レオに）そうすると、あなたはここから一度、出たということだ。

レオ　そうだ、主人が心変わりをして七日目に私を迎えに来た。

チャコ　自分で捨てておいて、引き取りに来る飼い主もいるのね。

レオ　無理して引き取りに来たんだ。でも、数年してやっぱり私を飼えなくなった。

ジョン　最近、会わないなあ、と思っていたよ。

レオ　主人の体調が悪くて、私を散歩に連れていく余裕

がなかったんだ。

ビート 以前、ここに来たことがある、ということはその
ときにも、このように同じ境遇の仲間が？

レオ いたよ。私の他に3匹ほどね。

ビート その3匹は、どうなりました？

レオ ……。

マックス どうして黙る？

リリィ 死んだんだ、死んだんだ、きつと……。

ビート 殺されるのか、俺たちは……。

ジョン レオ、どうなんだ？

レオ 大丈夫。そんな簡単に殺されるわけじゃない
か。私たちは生きてるんだよ。死ぬことなんてあ
るわけじゃないか。

ビート そうだ、その通りだ。死ななきゃいけない理由が
僕たちにはない。

リリィ ああ、なんだかほっとした。

ナナ 殺されるんじゃないかと思った。本当に。

マックス ……。

レオ まあ、落ち着いて。主人が迎えに来るか、新しい

飼い主が見つかるまで、ここで過ごす覚悟は必要だよ。

リリイ　ええ。ずっとここで？

ビート　散歩はどうなるんだ、散歩は？

ナナ　ああ、なんだかイライラしてきちゃった、私。

ナナ、穴を掘るしぐさをする。

チャコ　ここで、ずっとねえ……。

マックス　一緒にいたあとの三匹はどうなったんだ？

レオ　新しい飼い主に引き取られていったよ。

マックス　三匹とも？

レオ　ああ、そうだ。

マックス　（レオに詰め寄って）信じられねえ。

レオ　私は本当のことを言ってるだけだよ。

マックス　簡単には信用できないな。

ジョン　レオがそう言ってるんだ。レオの言うことを信じようじゃないか。

マックス　とてもじゃないが、全員助かるとは思えない。

ジョン　じたばたしたってしょうがない。希望を持たなきゃ、私たちは生きていけないよ。レオみたいに飼い主が迎えに来ることもあるわけだから。

レオ　……。

チャコ　そうね、きっと大丈夫だわ。

レオ　大丈夫だ、大丈夫。

レオ、額の汗を拭く。

マックス　冷や汗でも掻いたか？

レオ　いや、私はシュナウザーだ。短毛の君より、汗を掻く。

マックス　それだけだったら、いいけどな。

ジョン　マックス、レオをあんまり責めるのはやめてくれないか。

チャコ　そうね、レオも私たちと同じ境遇なわけだし…

…。

マックス　お気楽なもんだな、このおっさんの表情は、尋常じゃないぜ。毛が多くてよく見えないが、顔は真

っ青って予感がするぜ。

レオ ……。

マックス どうして黙ってる？

レオ 少し疲れた。休ませてもらえないか？

マックス おう、好きにしてくれ。休む場所なら、いくらでもある。

レオ、壁際に行き、横になる。

ジョン、さりげなくレオの横に座る。

ジョン (小声で) レオ、僕だけに話して。

レオ 何だ？

ジョン これからどうなる？

レオ 聞いて、得することはない。

ジョン 知りたいんだ。何も知らずにいることも不安だ。

レオ ……。

ジョン 人間だって、最近ははっきり、余命の告知を医者がするそうじゃないか。この先に何が待っているのかは、何だか想像がつく。

レオ だったら、その想像通りだと言っておくよ。

ジョン 俺たちは、殺されるのか？

レオ ……七日は平気だ。七日目までは待ってくれる。

ジョン 七日……。

レオ ああ、そうだ、七日間だ。

ジョン ありがとう。よく教えてくれた。

レオ でも、みんなには内緒に。知らないほうがいい。

ジョン わかってるさ。

レオ ジョン、幸運を祈るよ。

ジョン レオ、あんたも絶望するなよ。

レオ 今度は迎えに来ることはない。仕方がないことなんだ。

ジョン 最後まで希望を捨てないで。

ジョン、レオの肩を叩く。

上手から、シヨコラ、エルビスが現れる。

シヨコラは温和な雰囲気。

エルビス、冷静で寡黙な雰囲気。

エルビス なるほどね……。

シヨコラ あらっ、お仲間がいつぱい。

ジョン （無理やり元気に）いやあ、ようこそ。この犬の楽園、パラダイスランドの代表をしておりますジョンと申します。

エルビス （冷めた口調で）ご丁寧な挨拶どうも。

シヨコラ よろしくお願ひします。

ジョン いやあ、あなたがたは運がいい。ここにいる仲間たちは心優しく、楽しい連中ばかりです。順に紹介しましょう。まずは噛み癖のビーグル犬、マックス！

マックス、舞台前に出て来て、かっこつけたポーズ。

ジョン 次は、中年トイプードル、チャコ。

チャコ （髪を後ろにはらって）よろしく。

ジョン お次は、おちゃめなコーギー犬、リリィ！

リリイ、西洋の貴婦人の挨拶。

ジョン

そして、このパラダイスランドの生き字引（じびき）、ミニチュアシュナイザーのレオ！

レオ、控え目にお辞儀をする程度。

ジョン

そしてクライマックスは、このパラダイスランドのピチピチアイドル、チワワのナナ！

ナナ、軽くポーズを取って、ウィンク。

ジョン

そして、ラストはわたくし、パラダイスランドの支配人、ミニチュアピンシャーのジョン！

ジョン、胸に片腕をかけて、西洋の紳士の挨拶。

ビート、ジョンに必死にアピールする。

ジョン

忘れてました、もう一匹。駒のようにくるくる回る
コリー犬、中年元気のビート！

ビート、その場でくるくると回って、倒れ
る。

ジョン

以上、パラダイスランドの挨拶ショーでした！

エルビス、進み出て、

エルビス

(冷めた感じで) ダルメシアンのエルビスです。
よろしく。

シヨコラ

(笑顔で) マルチーズのシヨコラです。よろしく
お願いします。

チャイムの音が聞こえる。

夕方の照明が変わる。

レオ

(エルビスとシヨコラに) きつと、君たちで最後

だろう。もうすぐ日が落ちる。

マックス

こんなところに俺たちを閉じ込めやがって、いったい何を考えてるんだ。

シヨコラ

あの、みなさんはどんな理由でここに？

チャコ

(シヨコラに) そういうあんたはどんな理由？

シヨコラ

うーん、外に出てみたかった、というか、一度くらい自由に行きたいところに行きたいなあ、と思って。

リリイ

家出しちゃったんだ？

シヨコラ

そんなつもりはなかったのよ。ご主人様はいい人だし、食事はペディグリーチャムだし。でも、走っているうちに、どこにいるのかわからなくなっちゃって。

チャコ

嫌味ね、ペディグリーチャムだなんて。リツチな生活してたってわけね。

シヨコラ

いえ、私は別にそんなつもりで言ったわけじゃ…
…。

チャコ

じゃあ、どんなつもりだったのよ！

マックス

熱くなるなよ、おばさん。

チャコ (シヨコラを見て) おばさんってねえ、この人だ
つて、大して私と変わらないでしょ。

一同 ……。

チャコ 悪かったわね、年増のおばさんで！

ビート まあ、新しい方たちも来たわけだし、みんなで仲
良くやりましょうよ。

ジヨン そうだね、最後の日まで。

マックス 最後の日？

ジヨン みんなが、ここから出られる日まで仲良くやろう
って意味だよ。

レオ、ほっとした表情。

ジヨン そうだ、新しい仲間も入ってきたことだし、歓迎
会を開きましょう！

マックス 歓迎会！？

リリィ さっきの挨拶じゃだめなわけ？

ジヨン 盛り上がるゲームがいい。いろんなこと忘れて夢
中になれる遊び！

ナナ　そしたら、しりとりなんてどうですか？

シヨコラ　しりとり？

ナナ　普通のしりとりじゃつまらないから、犬に関係するものでしりとりしましょう。

ビート　けっこう難しそうだなあ。

シヨン　暇つぶしだよ、暇つぶし。

シヨコラ　そしたら、最初、誰から行きます？

シヨン　私から行こう。

チャコ　最初が一番楽よね。

シヨン　いいじゃないか。どうせ、僕の順番も回ってくるわけだから。

シヨコラ　どの順番で行きます？

シヨン　よしっ、円になって、時計回りに行こう。

エルビス　私は遊びはいいですよ、本当に。

シヨン　（エルビスを促して）まあ、そう言わずに。

シヨンを中心に、円を描くように右側にナス、その隣にエルビス、ビート、マックス、リリイ、チャコ、レオ、シヨコラの順

で円状に立つ。

ジョン それじゃあ、犬に関する用語ね、僕から行くよ。

一同 ……。

ジョン ケージ。

ナナ ……ジャックラッセルテリア。

エルビス アレルギー。

ナナ 犬アレルギーかあ。私を預かってたおじちゃんが
そうなのよね。

シヨコラ だから、捨てられたんじゃないの。

エルビス アレルギーだから、イだね。

ビート イ、イ、イリオモテヤマネコ。

シヨコラ 犬じゃない。

マックス おもいつき猫じゃないか。犬しりとりだろ。

ビート ちよつと待って。すぐ考えるから。イ、イ、イ
ヌ。

マックス イヌって、そのまんまだな。

ビート いいじゃないか、しりとりなんだから。はい、イ
ヌだから、ヌ。

マックス ヌ、ヌ、ヌイグルミ。

シヨコラ 犬じゃない。

マックス 犬のぬいぐるみってよくあるだろ。セーフだ、セーフ。

ジョン どうする、ナナちゃん？

ナナ 続けたいんでセーフで。

ジョン ヌイグルミだから、ミだ。

リリイ ミニチュアダックスフンド。

チャコ ドッグ。

マックス そのままじゃねえか。

チャコ ほんとだったら、ぬいぐるみはアウトよ。ドだからドッグよ。何の問題もないわよ。

レオ グかあ、グ、グ、グーチョコパイのグー！

一同 ……。

レオ すまん、真面目に考えるよ。グ、グ、グレイハウンド。これなら文句ないだろう。

シヨコラ ドでしょ。ド、ド、ドミニカ共和国。

マックス どういう感性してるんだ、あんたは。犬と全然関係ねえし。

シヨコラ だって、ドッグってもう一回言ったら、おしまい
でしょ。他に浮かばないんだものー。

エルビス ドッグフードとか……。

シヨコラ それもらいます。ドッグフード。

ジョン また、ドじゃないか。おしまいだ、おしまい。ド
ッグでおしまい。

ナナ はい、終わりですー！

レオ えっ、もう終わりかあ。

ナナ ちよつとは楽しめたでしょ。

チャコ ちよつとね、ちよつと。

エルビス こんなことするために、僕は主人のところから逃
げて来たわけじゃないんだが。

ジョン (エルビス) まあ、そう言わないで。ナナちゃん
がせっかく思いついた遊びなんだから。はい、み
んなでナナちゃんにお礼。

一同 ワン！

暗転

4日目。朝。

チャイムの音が響く。

レオ 今日で、4日目だな。

マックス ここに連れて来られてから、4日目の朝だ。

ジョン 退屈だな。

ビート 遊びももう、やりつくしちゃいましたしねえ。

リリィ 早くここから出たいー。

チャコ ここで、じっとしてるのも、辛くなってきたわね。

ナナ おばあちゃん、迎えに来てくれないのかな……。

ビート きっと、今頃、探しているさ。

マックス 俺の主人も現れない。

シヨコラ 私も。

ビート このまま、誰も迎えに来なかったら、どうなるんだらう？

一同 ……。

マックス なあ、おっさん。

ジョン・ビート・レオ 何？

マックス ジョンに言ってるんだよ。

ジョン 俺にはジョンという名前があるって言ってるだろ。

マックス おっさんでも、ジョンでも何でもいいんだ。そろそろ、俺たちがいつどうなるのか、教えてくれないか？

ジョン そんなこと私が知ってるわけじゃないか。

マックス レオ、あんた、ここに来るのは二度目だって、言ってたよなあ。

レオ そうだ、私がここに入るのは二度目だ。

マックス あんたはそのとき、七日目に飼い主が迎えに来た。他の仲間は新しい飼い主に引き取られたと言っただけ、それは嘘だろ。

レオ 嘘じゃない。

マックス 天国に行った仲間を忘れない、なんてかますんだろ？

ジョン (微笑して) どうしたんだ、マックス。今日はやけに熱いじゃないか。

マックス もう四日目だ。そろそろ現実から目をそらすのは

やめようぜ。

ジョン

……。

マックス　なあ、レオ。俺たちは七日目を迎えたあとどうなる？

レオ、頭を掻き、何か考え事をしながら、
うろろうろとしたあと、

レオ　……移動する。

マックス　どこに？

レオ　動物愛護団体の施設に、だ。

マックス　動物愛護団体？

レオ　犬や猫のためのボランティア団体。

マックス　そこに俺たちは移されるのか？

レオ　そうだ。

マックス　そこに引き取られて、どうなる？

レオ　里親探しが始まる。

マックス　里親？

エルビス　僕は生れてすぐに、この施設に引き取られたん

だが動物愛護団体に助けられた。だから、いまの主人は二人目の飼い主だ。

ビート
その動物愛護団体というのは、必ず私たちを引き取ってくれるんですか？

エルビス
私は子犬のとき、ここに連れて来られたが、そのときは引き取ってもらえた。

レオ
飼い主が来なくても助かる。そういうわけだ。

シヨコラ
良かったあ。こんなことなら、早く聞いておけばよかった。もしかしたら、殺されるんじゃないかなあって思ってたの。人間って、本当に勝手な生き物だから。

リリィ
私も。内心、びくびくしてた。殺されるんじゃないかって。

ナナ
（笑って）よかった、助かる！

シヨコラ
（笑って）助かる！

レオ、ほっとした表情。

チャコ
甘いわね、あたしは、そんな話、信用できない。

ジョン　実際、助かっているエルビスがここにいるじゃないか。

チャコ　ねえ、エルビス、あなたが前に一度、ここに連れられてきたとき、他にも仲間はいたの？

エルビス　いや、子犬だったし、そのときは私だけだった。

チャコ　ほら。子犬だから、助けてくれたのよ。

エルビス　そうなのかなあ。でも僕は今の主人の元から逃げ出すという選択肢しかなかったんだ。

ジョン、急にもぞもぞと動き出して、

ジョン　うわっ、ちよっともよおしてきた。レオ、ちよつと俺の壁になってくれ。みんなにこんな姿を見られたくない。

ジョン、レオを檻の端のほうに引っ張っていく。

ジョン

レオ。

レオ 何だ？

ジョン 里親の話は本当か？

レオ 半分合ってるが、半分は嘘だ。

ジョン 何が嘘なんだ？

レオ 助かる時もあるだけだ。

ジョン 全員じゃないってことか。

レオ、小さく頷く。

レオ、ジョンを突き飛ばして、

レオ ジョン、話が違うじゃないか。用は足さないように我慢するんじゃないか？

ジョン 話が違うのは、そっちのほうじゃないか。

レオ 私は何も間違ったことは言っていない。

ジョン 確かに、ここで用を足すと、檻の中が汚れる。よしっ、我慢しよう。

ビート 小便是禁止だって言ったのは、ジョン、あなたですよ。

リリィ そうよ。他の仲間にはだめって言うておいて、自

分はいいわけ？

ジョン
忘れちゃいけないよ。ここのボスは僕なんだから。

ビート
だったら、なおさらルールは守ってもらわないと。

ジョン
いいじゃないか、しなかったんだから。

ナナ
反省してください。

ジョン
わかったよ、すまなかった。次から気をつける。

コツコツコツと足音が聞こえる。

足音に耳を澄ます犬たち。

全員、緊張した面持ち。

足音が止まる。

ビート
誰だ、こっちを見てるぞ。

チャコ
あたしのご主人様じゃないわね。

ナナ
私も違う。

リリイ
私も。

しばらく前をみつめ続ける犬たち。

ジョン おいつ、誰かの飼い主じゃないのか？

レオ 違うな。

マックス 見たことがない人間だ。

エルビス 俺も知らない。

シヨコラ 私のご主人様じゃない。

ジョン 誰だろ？

リリイ あっ！

檻の前から、コツコツと足音が遠のいて

いく。

ジョン 誰の飼い主でもないのか？

一同 ……。

ジョン まあ、気長く待とう。時間はまだある。

マックス ああ、もう面倒くせえ。みんなどう思ってたんだよ。

本気で全員助かると思ってるのか？ 思っていないだろ。ごまかすのはやめようぜ。

ジョン　ごまかすって何だい？

マックス　希望を持つとうとするために必死だ。全員なんて助かるわけないだろ。むしろ全員、殺される気がするよ、俺は。

エルビス　そんなことはないよ。

マックス　（エルビスに）子犬で一匹だったんだろ。たまたま助かった昔話を俺たちにするな。あんたも死ぬぞ。はっきり言う。全員は助からない。俺たちはきつと殺される。

エルビス　……。

リリィ　なんで殺されなきゃいけないのよ。

マックス　全員を助ける余裕が人間にあるとは思えない。一匹でさえ、まともに飼えずに捨てる人間がいるのに、これだけの犬をどこの誰が飼うんだ？

レオ　マックス、少し落ち着くんだ。希望はあるんだ。最後まで頑張ろうじゃないか。

マックス　やっぱりあんた何か知ってるんだろ。本当のことを俺たちに教えろ！

ジョン　今日は雨が降りそうだなあ。鼻がムズムズする。

マックス だから、そうやって、とぼけんなよ！

ジョン 君はいいよなあ。自分で逃げてきた。君のご主人は君を探し回っていてここに現れるかもしれない。でも、私みたいに置き去りにされた犬はどうなるんだ。微かな希望に胸を膨らませなきゃ、絶望で息ができなくなるじゃないか。

ジョン 私は、仲間が苦しむようなことを話したくはない。

マックス 青臭いこと言ってんじゃないやねえ。俺は、現実を受け入れる覚悟はできてるんだ。

レオ みんなはどうなんだ？ 聞きたくない者もいるんじゃないか？

一同 ……。

リリィ 怖いけど、現実を知りたい。だって、そこからは逃げられないから。

シヨコラ 私も。

ナナ あたしも。

エルビス 聞こうじゃないか。

ビート 僕にも聞かせてくれ、ジョン。

ジヨン　私が嫌なんだよ。みんなに話せば、それは現実味を帯びてくる。もっと間近に死が迫ってくる。

シヨコラ　やっぱり、死ぬのね、あたしたち。

ジヨン　……。

レオ　期間は七日。七日目の晩が最後。

ジヨン　今日はもう、四日目だ……。

マックス　やっぱり、そういうことか……。

レオ　言わなくてすまなかった。みんなのためだと思っ
たんだ。

チャコ　昔、一緒に入ったお仲間は？

レオ　一匹は愛護団体に引き取られた。あとの仲間は
……。

リリィ　……そんな、嫌よ。私、死ぬのは嫌。

ビート　みんなそうですよ。死にたい奴なんていないさ。

シヨコラ　ご主人様が迎えに来てくれる、きっと。

レオ　そうだ、まだ三日ある。きっと誰かは助かる。

エルビス　私は死ぬために、主人の元を離れたわけじゃな
い。

マックス　人間は自分勝手だ。俺だって助かるかわからな

い。

ナナ (祈るように) おばあちゃん、私を助けて。

エルビス 別の主人を探そうと思ったが考えが甘かったか。

ジョン 慌てるな。まだ、希望はあるんだ。それを信じよう。

チャコ 残念ながら、あたしはその希望もないわ。

ジョン チャコ、卑屈になったらだめだろう。

チャコ ジョン、あたしはね、病気を持ってるの。白内

障。あたしが捨てられる直前に新しい若いトイプードルが来たのよ。もう元気一杯で、若くて、病気もなくてね。あたし、必要なくなっちゃったみたい。

ジョン チャコ……。

ビート ひどいな、人間は。必要がなくなれば、命ある僕たちを簡単に捨てるのか。

リライ 人間は自分勝手。ずるい。ひどい。許せない。

レオ だが、人間にも事情がある場合がある。私の主人は半身不随でね、車椅子の生活になってしまった。一度は迎えに来てくれたが、今度ばかりは、

やむ終えず私の首輪を外したんだろう。

ジョン レオ、あんた……。

レオ 家には戻らなかったよ。病気を患っている主人に、老犬の世話は無理だ。

マックス 忠犬ハチ公は、あんただよ。

ビート 主人のために死を選ぶ、なぜ？ 僕らは生きてるんだぞ。死ぬ理由もない。ただの人間の都合に流されていいのか？

レオ どうにもならないこともあるんだよ。

ビート 僕は納得できない。(レオに)あなたは生きるべきだ。主人に忠実に仕えてきたんでしょ。最後の奉仕が、死を選ぶこと、そんなのはおかしい。納得できない。

レオ ……。

リリィ ねえ、みんなここから出ようよ。私たちが殺されるなんておかしいよ。理由がないもの。

ジョン 出れるものなら、とっくに出てるよ。でもここは、柵と壁に囲まれた檻の中だ。逃げようがない。

ナナ 私はここで死ぬの？ ここで最後？ まだまだやりたいことがたくさんある。

シヨコラ ナナ、大丈夫、あなたもきつと助かる。

ナナ でも、そんなことわかんないじゃん。

シヨコラ 大丈夫。絶対に大丈夫だから。

ナナ シヨコラ……。

ナナ、シヨコラに抱きつく。

マックス 逃げようぜ、ここから。このまま犬死なんて文字通りで面白くないぜ。

ジョン どうやって？

マックス それをこれから、みんなで考えるんだよ。9匹もいるんだ。一匹くらい、いい知恵が浮かぶかもしれない。

エルビス 殺されるくらいなら、ここから逃げるしかない。

ビート よしつ、みんなで考えよう。ここから逃げ出す作戦を。

ジョン 無駄な努力だと思うがね。

ビート ジョン、あんたはこのボスだろ。一緒に考えてくれ。

ジョン ……。

マックス 最後の最後まであきらめずに行こうぜ。

一同 (ジョン、レオ、チャコ以外) うん。

ジョン 逃げるって言ったって、どうやって逃げるんだ。

マックス じゃあ、あんたはただ死を待つだけか？

ジョン 私だって、生きたい。あきらめたくはない。死ぬのは嫌だ。

マックス だったら、あんたもその小さな脳みそで考えてくれ。

ジョン ……。

ゴウン、ゴウン、ゴウンという機械音。
全員、神妙な表情で何やら考えている。

レオ 一つだけ、方法がある。

一同 えっ？

レオ 食中毒にかかったフリをする。

ビート えっ？

レオ 全員、食中毒にかかったフリをするんだよ。手とか足とかしびれさせて……。

ビート (素朴に) くだらない。

レオ 何がくだらないんだ。食中毒にかかったふりをする。ここの係員が異常を発見する。私たちは、検査室直行だ。そこで隙を見て、脱走する。

チャコ そんなにうまくいかないわよ。

レオ やってみる価値はあるじゃないか。

マックス 飯は、朝と夜に一回づつ。

レオ 今朝の飯はもう食べた。それがあたったことにするんだ。

ジョン ドッグフードであたったなんて聞いたことないぞ。

レオ それを強引にあたったかのように見せかけるんだよ。

エルビス とても、うまくいくようには思えない。

レオ このまま、ここにいるよりはマシだろう。

マックス レオ、やっぱりあんたも逃げたいのか？

レオ　私はもう老齡だ。拾ってくれる人間もいないだろう。ただ、みんなのために協力しよう。

ナナ　逃げれば、誰かが拾ってくれるかもしれない作戦？

レオ　そうだ。

エルビス　恥はかきたくないが、やってみるしかないか。――マックス　飼い主が来てくれる保障がない。俺たちには時間がない。

シヨコラ　……私は、もう少しご主人様を待ちたい。

ナナ　私も待ってみようかな……。

リリィ　私は、やってみようかな……。

ジョン　でも、この作戦はみんなが食中毒にかかったふりをしないとリアリティーに欠けるんじゃないか？

レオ　そうだな。みんなが食中毒になったほうがいい。

ビート　僕は協力する。どっちにしても、ここから早く出たほうが良さそうだから。

レオ　シヨコラ、ナナ、最初だけ協力してくれないか。検査室に連れて行かれたあと、脱走しなければ、ここに戻されるはずだ。

シヨコラ その間に、ご主人様が迎えに来たら？

レオ ……。

シヨコラ 私は協力できないわ。申し訳ないけれど……。

ジョン みんな、置かれている事情も立場も違う。

マックス 俺たちが出来るのは待つことだけか。ひどく退屈

だな。

レオ よしっ、それなら、この作戦に賛同してくれる者

だけで、やろうじゃないか。しびれて、痙攣でも

起こしているフリをするんだ。具合が悪ければ、

ここから出られる機会ができるかもしれない。

ビート ジョン、あなたは どうする？

ジョン やるよ。とてもうまくいくようには思えないが。

マックス シヨコラとナナは、やめておくのか？

シヨコラ うん。

ナナ ……。

マックス ナナ、どうするんだ？

ナナ どうしていいかわからない。

レオ どうしていいかわからないときは、直感に頼るん

だ。頭で考えるんじゃないくて心に聞いてみるん

だ。どうするべきか、は心が教えてくれる。

ナナ、胸に手をあてて、しばらく考える。

ナナ　ごめんなさい。私もやめておきます。

チャコ　あたしもやめとくわ。恥かきそうだから。

ビート　じゃあ、とにかくやってみよう、と思う者だけで
やりましょう。

コツコツコツと足音が聞こえる。

足音が檻の前で止まる。

ジョン、マックス、ビート、リライ、レオ、エルビス檻の外に向かって、必死に苦しそうなフリをする。

ジョン　おえっ。

ビート　苦しい……。

レオ　もう、だめだ……。

コツコツと足音が遠のいていく。

マックス　だめだ、今の係員、無反応だった。

リリィ　やってみて、かなり後悔かも……。

ジョン　立ちあがっちゃだめだ。もしかしたら、扉が開く
かもしれない。

しばらく扉をみつめる犬たち。

レオ　開かないな。

ビート　僕たちなんて、どうなってもいいってわけだ。

マックス　かつこ悪いなあ、俺たち。

ジョン　そんなことはないさ。ただ生きようとしているだけだ。

エルビス　だめだな、あきらめよう。

ビートが立ち上がろうとしたとき、また

コツコツと足音が聞こえてくる。

足音が檻の前で止まる。

チャコ 係員じゃないわね。

シヨコラ 誰だろう？

ナナ 私たちのこと、じっと見てる。

シヨコラ 自分の犬を探してるのかな？

チャコ 愛護団体ってやつじゃないの？

マックス だったら、ここから出してもらおうぜ。

全員、立ち上がり、

一同 助けてくれ。ここから出してくれ！

コツコツと足音が遠のいていく。

ナナ 行っちゃった……。

一同 ……。

チャコ 作戦は失敗ね。御苦労さま。

レオ おいつ、ジョン、いまのは君の……。

ジョン、レオの口を抑える。

ビート

ちよつと、ジョン、あんた何やってるんだ？

ジョン

レオがくだらない作戦を立てたから、つい腹が立ってね！

レオ

くだらない作戦とはなんだ！

ジョン

くだらないから、くだらない、と言ってるんだ。俺たちに恥かせやがって！

レオ

でも、君にとっては、こんなに嬉しいことは…
…。

ジョン

あんな作戦に参加して嬉しいわけないだろう！

ジョン、またレオの口を抑える。

ジョン

わかったか。わかったか、レオ！

レオ、口を抑えられたまま、何度も頷く。

ジョン、レオから手を離す。

ジョン

すまない。少し興奮してしまつて。

エルビス

(ジョンに) ボスなんだから、落ち着いてくれな

きゃ困りますよ。

雨がしとしと降り出す音。(SE)

チャコ 雨ね……。

リリイ あと三日。

一同 ……。

ビート 僕は、三日後、死ぬ。

リリイ あなたは、ご主人様が来てくれるでしょ。

ビート (うつむいて) いや、それが……。

チャコ あたしも、無理そうね。残念ながら。

ナナ いやだ。死ぬのはいや。

レオ どうして、こんなことになってるんだらうなあ。

ジョン マックス、お前、どうして飼い主の元から離れたんだ？

マックス こんなことになるとは思ってなかったんだよ。

ジョン 新聞配達バイクに吠えるなんて、バカ犬の典型的な例じゃないか。

マックス ふざけるな。俺は俺で、いつでもご主人様に異常

を知らせてただけだ。

ジョン だったら、逃げるな、バカヤロウ！

マックス 逃げたんじゃない。追っかけたんだ。首輪はたま
たま外れただけだ。

ジョン じゃあ、どうして、お前のご主人は迎えに来ない
んだ！

マックス それは、こっちが聞きたいよ！

ジョン ビート、お前の主人もなぜ来ない？

ビート 実はわたしの主人はうつ病にかかってしまって入
院することになったんだ。僕の飼い主は、ここに
現れることはできない。

ジョン ショコラ、君の飼い主は？

ショコラ 大丈夫、私を今、探しているはずだから。絶対、
大丈夫。

ジョン 遅いじゃないか。あと三日しかないっていうの
に。

ショコラ ……。

ジョン エルビス、君はどうなってる？

エルビス 迎えには来ないと思う。主人に俺への愛情はな

い。ジョン、君の飼い主は？

ジョン
キャリーから出された時、僕は振り返って主人の顔を見たんだ。主人は、今まで見たことがない悲しい目をしてたよ。

シヨコラ
だったら、助けてくれる可能性あるんじゃないですか？

ジョン
その悲しい瞳が、僕を捨てた、という意味だろう。

ビート
どうして七日なんだろう。少し伸ばして十日ぐらいまで待ってくれてもいいじゃないか。

チャコ
希望がある者だけじゃないのよ、ここは。

ビート
……。

チャコ
不思議よねえ。死が迫っているというのに不思議に冷静。最後ってこんなものかしらね。

エルビス
あと三日、どう過ごしていけばいいか……。

レオ
ただ死を待つだけか……。

ジョン
みんなでパラダイスランドにしようって言ったじゃないか。

マックス
命があると思ってた時はそれでもよかった。

レオ 希望を捨てるな。奇跡が起ることだってあるかもしれない。

リリィ でも、レオはあきらめてるんでしょ？

レオ 私はもうこの年だ。死が恐くないと言われれば嘘になるが、若い君たちよりも、あきらめがつく。

しかし、君たちは……。

一同 ……。

チャコ もうやめましょ。助かるかもしれない仲間だっているわけだし。

ビート そうですね、深く考えてもね。

リリィ そうそう、きつと死ぬときなんて、こんなものなのよ。

チャコ あきらめついちゃえば、こっちのもんよね。

ナナ あー、あと三日何しよう。天国ってどんなところなんだろう？

ビート そうそう、人間は死ぬと極楽浄土というところに行くらしいね。

ナナ でも、私たち、犬だけど……。

ビート 行けるさ。ここよりはいい場所に決まってる。

ナナ (やけ気味に) だったら、早く死んじゃいたい!

ビート (やけ気味に) あー、なんだかナナちゃんと話してたら、死ぬのも悪くないかなって思えてきた

よ!

ナナ おばあちゃん、私、先に行って待ってるね。

ビート そうだ、君の飼い主は、すぐに天国に来てくれそうだ。うらやましいなあ。

ナナ (投げやりに) えへっ!

ビート (投げやりに) いひっ!

マックス 黙れ。ムカムカする。

ビート そんなこと言われてもなあ、いいよなあ、君は助かるかもしれないから。

ナナ ほんと、うらやますいー!

マックス そんなのわからねえだろ。

ビート そしたら、一緒に天国行く?

ナナ 行く?

マックス 行かねえよ。こんなところで死んでたまるか!

シヨコラ ねえ、ちょっと冷静になって。

ジョン そうだ、やけにならないほうがいい。

エルビス 同感だ。

ビート だったら、どうすればいいって言うんだ。僕は何のために生まれてきたんだ。こんな檻の中で死ぬためか。なあ、誰か教えてくれよ。

一同 ……。

ビート 何のために生まれてきたんだ、僕は……。

チャコ じゃあ、逆に意味のある生き方って何？

ビート ……。

チャコ みんな最後は死ぬのよ。何をやっても。

リリイ 楽しい思い出をもっともっと作りたかったかなあ……。

シヨコラ ねえ、リリイはどうしてここへ来たの？

リリイ ……。

シヨコラ ごめんなさい。余計なこと聞いちゃって。

リリイ 別にいいの。あたしも、捨てられたのよ。二年前、ご主人様の家族がバラバラになっちゃってご主人様に引き取られたけど。お酒ばかり飲んで散歩にも連れていってくれないの。

エルビス ひどい飼い主だな。

リリィ
でも、ご主人様の家族と行った沖縄旅行はいい思い出。丘の上から眺めた東シナ海。あの海の向こうには広大な大陸が広がっているって。

エルビス
広大な大陸かあ。どこまでも走っていけそうだなあ。

ビート
そういえば、僕も一度、秩父の温泉に行ったことがある。犬用の桧（ひのき）風呂があつてね、ご主人様と一緒に優雅な入浴タイムさ。あれは、いい湯だったなあ。

レオ
旅行か。私も一度は、経験してみたかった。

リリィ
レオは、旅行経験なし？

レオ
ないねえ。ただ近所の公園に池があつてね、そこに蓮の花が咲くんだ。薄いピンク色の綺麗な花でね、私は明け方の公園でその蓮の花を眺めるのが、本当に楽しみだった。

エルビス
僕のご主人と一緒にラスベガスに行ったことがある。ネオンがきらきらと輝いていて、それはそれはまぶしかった。

チャコ
犬はギャンブルはできないでしょ？

エルビス　　そうなんだ。やってみたいけど、できない。それが辛いんだ。

シヨコラ　　通り過ぎただけなんですか？

エルビス　　私は、車の中でお留守番。あのときは良かったんだけどなあ……。

ナナ　　うらやましい。海外旅行なんて。

チャコ　　ナナのご主人様はおばあさまだもんね。旅行には行かなかったの？

ナナ　　旅行はなかったけど、私は、ソファアの上でまったりしているだけで十分。そこでご主人様がハーブティーをすすする音を静かに聞いている。不思議と落ち着くのよね。

ジョン　　何を幸せに思うかは、皆それぞれ違うもんだ。

チャコ　　あたしたち、こんなこと話してていいのかしらね、あと三日しかないっていうのに。

一同　　……。

レオ　　話そう。話してなくちゃ不安ばかりが募る。考えても仕方がないことは考えないに限る。

ビート　　何の話をしましょうかね？

シヨコラ 好きな食べ物とか？

ビート はい、キュウリ。あれはコリコリしてて歯ごたえがよくて、ほどよい塩かげんが何とも言えない。

ナナ はい、あたし、ケーキ。ときどきおばあちゃん
が、分けてくれたの。イチゴも好き。

リリィ あたしは、リンゴ。シャキシャキとした食感が好き。

エルビス ビーフジャーキー。

チャコ トマトよ。トマト。あの酸味が好き。

シヨコラ えーと、私は、たくあん。

ジョン たくあんか。あれは一度、食べたが僕はだめだった。

レオ 私は何かなあ。あつ、さくらんぼ。あれはおいしかった。ほんのりとした甘みがいいね。

マックス ……。

ジョン どうした、マックス。

マックス 好物がみつからない。どれもこれも、そこそこうまい。かと言って特別うまいものもない。

ジョン ずいぶん、寂しいな。

マックス そういうあんたは何が好物なんだ？

ジョン 僕は、チャーハンだ。

マックス 食べたことがない。

ジョン それは、ちょっと損してるね。あんなおいしいものはないのに。

マックス 食べてみたかったなあ、チャーハン。

シヨコラ 人間はいろいろなものを食べるわよね。

エルビス 人間の食べ物は、僕ら犬には有害だと聞いたことがある。

レオ 塩分が強いらしいね。

マックス そうだ、俺、一つあった。味噌汁ぶっかけご飯。

一度だけ食わされた。あれ、うまかったなあ。

ジョン 味噌汁か。あれはしょっぱい。だめだ、食うもんじゃない。

マックス 俺の好物にケチつけてもらいたくないね。

ジョン 君にも食べさせてやりたかったよ。チャーハン。

ビート 食べるなら、キュウリだ。

エルビス ビーフジャーキー。

ナナ ケーキ。いちごが乗ってるやつ。

シヨコラ たくあんよ、たくあん。

チャコ トマトが一番よ。トマトが。

リリイ 絶対的にリンゴ。

ジョン チャーハンだ。チャーハンに決まってる。

マックス 味噌汁ぶっかけご飯。

レオ さくらんぼだ。さくらんぼ。

一同 ……。

レオ もう二度と食べられないかもしれないな。

マックス そういうこと言うなよ。気分が落ち込むだろ。

レオ 老いぼれのつぶやきだ。大して意味はない。

一同 ……。

マックス 何か話そうぜ。いろいろ考えちまうから。

ビート 楽しい話がいいですね。いい思い出というか。

チャコ そうね、こういうときは悪いことばかり考えちゃ

うもんだからね。

マックス いい思い出か。ありそうだけど、浮かんでこない
もんだな。

チャコ あたしはね、ご主人様を買ってくれた真紅のワン
ピース。背中におつきなりボンがついててね、そ

のリボンをふりふりさせながら、歩くのが本当に楽しかったの。おしゃれって楽しいのよね。

シヨコラ

あたしのお気に入りは、ピンクのチェック柄フリルドレス。帽子まで付いてるのよ。ドレスは10着ぐらいあったと思う。

チャコ

うらやましいわね、ご令嬢は。

シヨコラ

ああ、家を出るなんて、なんて馬鹿なことしちゃったんだろう、あたし。

チャコ

宮殿から逃げ出して、牢獄に入れられたようなもんね。

マックス

チャコはシヨコラに厳しいな。

チャコ

マルチーズに負けるのは、トイプードルのプライドが許さないのよ。

ビート

まあ、チャコさん、落ち着いて。

チャコ

もう一度着たかったわ、真紅のワンピース。

ジョン

私はもう一度、若い頃に戻ってフリスビー大会に出場したい。ご主人様の子供とペアになって、参加したが楽しかった。一生懸命フリスビーを追いかけていたら、家族みんなで褒めてくれてね、あ

れは本当にうれしかった。

雨の音がやむ。

ビート 辛いなあ。

チャコ あなただけじゃないわ。ここにいる仲間、みんな。

マックス 明けない夜はないって、俺のご主人様はつぶやいてたけどな。

チャコ 夜のままってこともあるんじゃない？

一同 ……。

ビート 誰か一匹でもいいから助かるといいですね。

シヨコラ でも、あたし、みんなを置いて出て行くのも辛くなっちゃうかも。

一同 ……。

ビート こうしませんか。もし、誰かがここから出られることになったとしても、僕たちは恨まない。その幸運を祝福するって。

ナナ うん、それいいかも。

レオ そうだな、みんなで祝福しよう。

ジョン、気まずい表情。

ジョン 実はみんなに話さなきゃいけないことがある。

ビート なんですか？

ジョン 実は、僕の飼い主がさつき、ここへ来た。

一同 ……。

チャコ おめでとう。良かったじゃない。

ジョン いや、それはそうなんだけど……。

リリィ おめでとう。

ジョン (控え目に) ああ。

シヨコラ 嘘！？ 私よりも先に出るわけ？

ジョン いや、君のご主人様も、きっと来るよ。

シヨコラ ごめん。なんだか泣きそう。私が一番最初に出られると思ってたから。

ジョン きつと大丈夫だよ。まだみんな三日もあるじゃないか。

レオ ジョン、よかったな。

ジョン
（レオに）さっきはすまなかった。なんだか、みんなに悪いような気がして、それで黙っておいてもらった。

エルビス
さっきの人影がジョンの飼い主だったのか。

ジョン
ああ、そうだ。

マックス
もっと喜べよ。ここから出られるんだから。

ジョン
……。

ビート
何かお祝いでもしましょうか？

チャコ
どんな？

ビート
胴上げでもしましょうか。ほらっ、野球って優勝すると、監督が胴上げされるんです。あれって祝福ですよ。

ジョン
いいよ。胴上げなんて。とてもそんな気分になれない。

ビート
でも、幸運は祝福するって言ったばかりだし。

ナナ
私、やってもいいですよ。

エルビス
そうだな。みんなで胴上げして祝福しよう。

全員、ジョンの周りに集まってくる。

ジョン やめてくれ。それだけはやめてくれ。僕だけが助かったって意味がないじゃないか。みんなが助からなきゃちつとも嬉しくない。

チャコ でも、みんなは無理なのよ。

ジョン どうして無理なんだ。どうして死ななきゃならないんだ。どうなってるんだ、世の中ってやつは。

マックス 助かるんだから、いいじゃないか。

ジョン 悔しいんだよ、私は。

一同 ……。

エルビス こんなものなのかもしれませんよ。

レオ ああ、こんなものなんだろう。

ジョン 僕は納得できない。戦いたいが、振り上げた拳を振りおろす場所がない。何なんだ！

エルビス 生きるってなんなんだろうなあ……。

レオ 運命を全(まっつと)うすること。途中で投げ出さずに。

マックス そんなことになんの意味がある？

ビート 犬はいつでも忍耐さ。ご主人様の帰りを待つ。ご飯を待つ。散歩を待つ。遊んでくれるのを待つ。

そして、死を待つ。

レオ　それが犬として生まれた私たちの運命だ。

マックス　散々、我慢して、ご主人様に尽くして、その結果がこのザマか。

レオ　運命なんだから、仕方がない。

マックス　運命、運命って、そんな言葉で簡単に片付けるなよ。

レオ　じゃあ、ほかにいったいどういう解決の仕様があ
るんだ？

エルビス　俺たちが生きてきた意味はなんだろうなあ……。

シヨコラ　思い出を作ってきたんだと思います。ご主人様
に、私たちと暮らしたたくさんの思い出を……。

マックス　（冷めた口調で）思い出作りか。

リリィ　幸せだったなあ。ご主人様に可愛がられていたと
きは。

エルビス　そうだね、幸せだった。

ナナ　捨てられなきゃ最高だったのに。

チャコ　そうね、捨てられる前に死ねれば最高だったわ
ね。

リリイ あと三日あるのに、三日もない気がする。

ビート あと三日しかないんだ。いろいろ思うのは仕方がないさ。

ジョン 具合が悪くなった。少し横になるよ。

ジョン、寝転がる。

チャコ 助かるっていうのに不思議なことね。もっと喜んだらいいのに。

ジョン どうすればいいか、わからないんだ。

マックス お別れだな、ジョン。

ジョン やめてくれ。

リリイ おめでとう。

ジョン おめでたくない。

エルビス 素直になりましょうよ。

ジョン 素直になってるさ。こんな状況で僕だけが助かる。みんなのことを思うと喜べるわけがない。

チャコ あのねえ、まだ三日あるのよ。まだ助かる子だっているわ、きつと。

ジョン 助からないやつもいる。

エルビス はつきり言いますね。

ジョン 現実なんだから仕方がないじゃないか。現実から目をそむけることはできないよ。これは現実だ。

夢を見てるわけじゃない。

エルビス そんなことは言われなくてもわかってる。

ジョン 僕の苦しさをわかってくれないから、はつきりと言わなきゃいけないんだ。

チャコ ジョン、ちよつと、あんた落ち着きなさいよ。

ジョン いっそ、君たちのことを忘れられたらいいが、そういうわけにもいかない。

チャコ 忘れるわよ、そのうち。私たちのことなんて。

ジョン 忘れないよ。忘れるわけがないだろう。

レオ 残されるほうも苦しいか……。

ジョン やっぱり、ここから抜け出そうじゃないか。もう一度、みんなで方法を考えよう。

一同 ……。

ジョン 僕が出るときに、あの扉が開くはずだ。そのときにみんながダダーッと逃げ出すんだ。

チャコ この檻から出れたって、また連れ戻されるだけ

よ。だから、さっきの作戦も参加しなかったの。

ビート 外に出れば、誰かが拾ってくれるかもしれない。

チャコ 可能性は限りなくゼロよ。

リリィ もう忘れましょ。終わったことは。

ナナ そうですよ。みんなで仲良く。

マックス そうだな。仲良くあの世まで……。

レオ (マックスに) どうして君は、そういう毒を吐く

かなあ。ここに来てからずっと思ってたんだ。君

は言いたいことを言いすぎるよ。

マックス 言いたいことを言って何が悪いんだ。

レオ (マックスに) 君の一言で傷つく者もいるんだ。

君だけが生きている世界じゃないんだぞ。

マックス ここまで来て、説教かよ。将来もねえかもしれね

えのに。

レオ ……。

シヨコラ まだ少なくとも三日ありますよ。

ナナ まだ死ぬって決まったわけじゃないし。

マックス 決まってるんだよ。

ナナ えっ？

マックス 黙ってて悪かったよ。俺も脱走したわけじゃない。
い。

一同 ……。

マックス 俺の主人は転勤で社宅に入ることになった。結局、僕を飼えなくなっ
て、主人は僕を捨てた。捨てるしかなかったんだ。

ジヨン 新聞屋を追いかけて、出てきたんじゃないのか？

マックス 俺もレオと同じだよ。確かに、飼い主に裏切られたとは思いたくないもんだ。今までの記憶は！

温かかった思い出は！ 尽くして来た苦勞は！

エルビス マックス、落ち着いて。

マックス ふざけんな、バカヤロウ！ こんな世の中、滅びてしまえばいいんだ。人間は滅びるべきだ。悪いのは人間だ！

ビート そうだ、悪いのは人間だ！

マックス 全部、人間が悪いんだ！

シヨコラ そんなことない。人間は悪い人ばかりじゃない。

私は運が悪くて、ここに來ているだけ。

マックス 迎えに来るとは限らねえだろうが。なあ、いつそのこと俺たちと一緒に死のうぜ。

シヨコラ いやよ。

チャコ マックス、あんたなんてこと言うの！

マックス もうどうでもよくなってきたんだよ、俺は。ここは、気が狂いそうになる。

ゴウン、ゴウン、ゴウンという機械音。

マックス なんなんだ、この音は！ 仲間たちを殺している音か？

レオ マックス、この音はそんな音じゃない。

マックス そんな音に聞こえるんだよ、俺には。

レオ すまなかった。君のことに何も気付かなかった。すまなかった。

マックス (自分に) くっそ！

ナナ ああ、なんだか私、もう疲れちゃった。どうでもよくなってきた。

シヨコラ そんな悲しいこと言わないでよ、お願いだから。

ナナ ショコラはいいね、まだ希望があつて。

ショコラ あなたにだつてあるわよ。

ナナ ……たぶん、私はここで死ぬんだと思う。

ショコラ だから、そういうふうに言うのはやめてよ。

ナナ ありがとね、私のために悲しんでくれて。

ショコラ 私だつて、どうしたらいいか、わからないのよ。

ショコラ、しゃがみこんでしまう。

レオ 運命というのはむごいな……。

チャコ 何の前触れもなくやってくるのね、不幸つて。

レオ 乗り越えるべき壁が、死だなんて、あまりに高い壁だよ。

チャコ もう、完全にあきらめてるのね。

レオ あんたもそうだろう。それとも、まだ希望か？

チャコ 奇跡……もし、そんなものがあつたら、助かるかもね。

レオ 奇跡か……。

リリイ 奇跡に頼るしかないか……。

ビート　　なんだか寂しいな。奇跡しか頼りがないなんて。

ジョン　　まだ、三日ある。まだ三日……。

チャコ　　あたしの分まで長生きしてよね。

ジョン　　そういうのは、勘弁してもらいたい。

チャコ　　冗談よ。

コツコツコツと靴音がして、檻の前で止まる。

レオ　　誰だ？

ジョン　　誰かの飼い主じゃないのか？

シヨコラ　　……私、私のご主人様、やっと、やっと来てくれた。

暗転。

キーンコーンカーンコーンと、チャイムの音。

明りがついて、七日目。

すべての犬たちが横たわっている。

その犬たちの中にシヨコラはいない。

チャコ シヨコラ、いまごろどうしてるかしらねえ。

ビート うまい飯でも食べてるんじゃないですか？

リリィ うらやましい。ペディグリーチャムだあ……。

エルビス 最後の晩餐に出してもらいたいね。ペディグリーチャム。

レオ 最後の晩餐か……。

マックス 辛気臭えなあ。

ジョン 仕方ないだろう。もう七日目なんだ。

ビート 明日の朝がやってこないなんて信じられないなあ。

エルビス 一縷（いちる）の望みを持って、思い切って出てきた先が死だったか。

ナナ 理不尽の塊。

マックス 理不尽と言えば、ジョンだ。

ジョン もう、その話はやめてくれないか？

マックス 暇つぶしだよ。あいつはいったい何をしに来たんだ？

ジョン 私を主人をあいっ呼ばわりはやめてくれたまえ。

マックス おかしいだろ。ここまで来て、あんたの顔を眺めて、そのまま帰っていくなんて。

ジョン だから、何度も言ったじゃないか。ご主人にはご主人様の事情があるんだ、と。

チャコ 本当に引き取るつもりだったのかしらね。

ジョン そうじゃなかったら、ここまで来ないだろう。

マックス でも、心変わりした。

ジョン 一度でも、顔を見せてくれたのはありがたいことだよ。

エルビス 僕なら恨むね。変な期待を持たせた分だけ罪だよ。

ジョン だから、ご主人にはご主人の都合があつたんだよ。

マックス はっきり言っちゃえよ、もう最後なんだから。恨んできますって。

ジョン 恨みはしないよ。悔しいがね、ちよつと。

ナナ 天国と地獄は紙一重。

ビート ナナちゃんは、ここ数日、かなり厳しいね。

ナナ　そりゃそうでしょ。こんなことになってるわけだから。かと言って、病気のご主人様が悪いわけでもなく……。

マックス　恨まずにすむってことは幸せなことだぜ。

ビート　そうだね、幸せなことだと思うよ。

ナナ　何が幸せなのよ。死んじゃうのに。

レオ　どうにかしてやりたいもんだが、どうにもできない。
い。

チャコ　何もする必要ないのよ、ここまで来れば。

ビート　死ぬときって苦しいのかな……。

マックス　レオ、俺たちはどんな死にかたをするんだ？

レオ　知らんと言ってるだろ。

マックス　嘘つけ。

チャコ　そうね、そろそろどんな死に方をするのか知っておいてもいいかもね。

一同　……。

レオ　言わないよ、私は。これだけはね……。

ジョン　今さら、何を隠す必要があるんだ。知らないほうが、恐ろしさが増すつてもんだ。

レオ 知ってもいやなものなんだ！

マックス 全部、白状しちまえよ。面倒くせえ。

レオ 投げやりになるな。

ビート そんなこと言われても、もう何もかもどうでもよくなるよ。

チャコ 今までいろいろ悩んでたことが馬鹿みたいに思えるわ。どうせ、全部なくなっちゃうものだったんだ。

レオ 死ぬ間際までわからないもんだね……。

ビート だったら、どんな死に方をするのか、教えてくれないのに。

レオ 君は死ぬまで私を悩ますつもりか？

マックス 全部なくなるって言ったじゃねえかよ。

レオ だから、教えなくたっていいじゃないか。どうでもいいんだから。

マックス チッ！

ジョン レオは最後まで頑固だ。

レオ 悪かったね、これが私の性格でね。

ジョン、仰向けになって、天井を眺める。

ジョン　もう空を仰ぎ見ることもできないか……。

リリイ　この部屋、蛍光灯が並んでる。

ジョン　つまらん空だ。

リリイ　空じゃないでしょ。これは。

ジョン　そうだ、ご主人と一緒に海に行った時のことを思い出したよ。真っ青な空の下で、砂浜を駆け巡った。

ナナ　私、海を車の中から、見たことがある。

ジョン　海は最高だぞ。風も気持ちがいい。心を解放してくれる。自然の宝物だ。

レオ　最後によぎるのは、思い出だな。

ジョン　いい思い出ばかりだ。悪い思い出なんて、思い出したくもない。

一同、微笑する。

マックス　俺もご主人様の腕を噛んだ感触がたまらなくて、

他にもたくさんの人間を噛んだ。その挙句がこのザマだ。

ジョン

（マックスに）話を折るのが好きだな、君は。悪い思い出は思い出したくないと言ってるんだ。

マックス

ガブリとやった感触がたまねえんだよ。やっぱり俺たちは肉食動物だな。悪い思い出じゃない。

レオ

私もよく骨のおもちやを噛んでいたよ。ゴムだったが、噛むと気分が落ち着く。

ナナ

私たちの祖先ってオオカミらしいですよ。

エルビス

だから、遠吠えをする。仲間聞こえるように。

チャコ

（エルビスに）あらっ、意外。孤独を愛するオスだと思ってたわ。

エルビス

誰にも邪魔されない時間は自分だけの時間に酔いしれることができる。でも、仲間といたいと願うときもある。

ナナ

エルビスはどうして飼い主の家から出てきたの？

エルビス

私の主人は機嫌が悪くなると、僕を蹴ったり、殴ったり、ゴルフバットで叩く。ここにいたらいつか殺される、そう思って逃げたんだ。

チャコ 虐待を受けてたわけね。

エルビス そういうことだ。

ジョン 不思議なもんだ。明日はないっていうのに、僕の心はひどく落ち着いている。こんなものだろうか……。

レオ あきらめがついたってことだろう。

ジョン どうでもいいや。人間社会も犬社会も。

チャコ そうね、もうどうでもいいわね。

ビート それにしても、ジョン、あなたのご主人はひどいと思う。何をするためにここまで来たんだ。自分で捨てておいて、どうして顔を見に来るんだ？
わからないよ。思い出したくない。もうどうでもいい。

エルビス 君は助かるかもしれない。

ジョン どうして？

エルビス そんな予感がする。

ジョン 最後の日におかしな希望を持たせないでくれないか。

ナナ 最後の日……。

チャコ ナナは、不憫だわ。若すぎる。

レオ そうだな、私のような老犬はどうでもいいが。

ビート 何とかしてあげたいけど、どうすることもできない。
い。

ジョン マックスもまだ若い。

マックス 最後にガブリと、係員に噛みついてやるさ。思い切り、血が出るほど噛んでやる。恨みを込めて。

エルビス 人間はやりたい放題だな。犬は人間様のいいなりで命まで奪われる。

チャコ 恨むべきかもね、どんな事情があろうとも……。

ナナ 力には勝てないのね。圧倒的な力には。良いとか、悪いとか、全然、関係ないんだ。

ビート 弱肉強食が自然の掟だとしても、とても納得できない。

レオ さて、私たちは何を叫んで旅立とうか？

チャコ 一匹でも、私たちと同じような境遇に立つ仲間が減りますように。

ジョン そうだな。

リリイ うん、それでいい。

ゴウン、ゴウンと機械音。

マックス まったく耳障（ざわ）りな音だな。

レオ 冷房でもかかってるんだろう、夏ももう近いから。

マックス そうだとしても、俺たちを脅迫しているように聞こえるよ。

リリイ 脅迫？

マックス 死ぬぞ、死ぬぞってさ。

ジョン もうよそう。あきらめも肝心だ。

マックス どうして死ななくちゃいけないんだ！

レオ お前さんが言わなくても、みんな思ってることだ。

マックス だったら、どうして叫ばない。これはおかしい、とどうして叫ばないんだ？

レオ 今さら、吠えたところでどうにもならんだろ。

マックス 悔しいなあ、俺は本当に悔しいよ。

エルビス ああ、私も悔しさでいっぱいだ。

チャコ 仕方ない、そんな言葉で片付くことじゃないわ

ね。

リリイ 死にたくない、私。

ナナ 私も。

ジョン 何か僕たちが生きた証を残そう。

チャコ 生きた証？

ジョン そう、僕らは生きていたんだ、と。

一同 ……。

マックス、ゆつくりと爪痕を残すように床を掻き始める。

ジョン、マックスの様子を見て、床を掻き始める。

全員、無念の思いを彫り込むように床を掻く。

コツコツと足音が聞こえてくる。

一同、檻の前に立っている人間を、仰ぎ見る。

一際、大きくなる機械音。

暗転。

舞台前に立ちすくんでいるジョン。

ジョンの少し後ろにシヨコラの姿がある。

二匹の後ろに、マックス、ビート、リリ

イ、ナナ、チャコ、レオが並んでいる。

レオ よかったじゃないか、ジョン。

ジョン ああ、ありがとう。

ビート ご主人様は何て？

ジョン 新しく引越す場所は犬は飼えなかったらしいんだ。でも、特別に大家さんから許可がもらえたらしい。僕は引越しが終わるまで君たちと一緒にだった。

マックス こっちは苦しい思いをしたよ。

リリイ 二酸化炭素で窒息死なんてあり？

エルビス もう少し、優しく殺してもらいたかったよ。

ジョン すまない、みんな。

レオ どうして謝るんだ？

ジョン 僕は、生き残ってしまった……。

エルビス 幸運だよ。助かってよかった。

ジョン 無念だなあ、苦しいよ。

チャコ ショコラ、聞こえる？

ショコラ チャコ……。

チャコ 助かってよかったわ。あなたが助かってよかった……。

ショコラ ごめんさない。

チャコ 謝ることなんてないのよ。

ショコラ みんな、ごめんない。

ナナ ショコラ、たまには私のことも思い出してね。

ショコラ 忘れないわ、あなたのことみんなのこと。

ジョン ナナ、君はまだ若かったのに……。

ナナ 運命ですよ。

ジョン 納得できないよ。運命で片付けたら、すべてが許されてしまうじゃないか。

ビート 死んだ僕たちは、そう思うしかないですよ、運命だって。

レオ 私たちの分まで、いい思い出をたくさん作ってく

れ。

マックス

そうだ、俺たちが絶望の中で最後に見出した希望は、たくさんのいい思い出だった。

チャコ

何にも変え難い、いい思い出を、たくさん……。

ジョン

……天国に行けそうか？

レオ

当たり前だ。

ジョンとシヨコラ、天を仰ぎ見る。

強い光がジョンとシヨコラを照らして、やがて消えていく。

【幕】